

国語

注意

- 1 問題は **1** から **5** までで、19ページにわたって印刷してあります。
- 2 受検番号を、解答用紙の決められた欄に記入しなさい。
- 3 答えは、全て解答用紙の決められた欄に記入しなさい。下書きは、問題用紙の余白を利用しなさい。
- 4 答えは、特別の指示のあるもののほかは、各問のア・イ・ウ・エのうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、答えの欄に、その記号を記入しなさい。また、答えに字数制限がある場合には、や。や「などもそれぞれ一字と数えなさい。
- 5 記号を書くときも、文字を書くときも、明確に書きなさい。
- 6 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを記入しなさい。
- 7 提出するのは、解答用紙だけです。

1

次の各文の——を付けた漢字の読みがなを書きなさい。

- (1) 彼女はいつも柔和な笑みを浮かべている。
- (2) 古都の名残を留めた町並みを散策する。
- (3) 組織運営で最も重要なのは中庸の精神だ。
- (4) 継続することの大切さを諭して聞かせる。

2

次の各文の——を付けたかたかなの部分に当たる漢字を楷書で書きなさい。

- (1) 事態のシュウシュウに向け一丸となる。
- (2) キをてらったデザインが人目を引いた。
- (3) しつかりと米をトイでからご飯を炊く。
- (4) シゴク当然な意見に納得してしまった。

3

次の各問に答えなさい。

〔問1〕「会社の方針に異ギを唱える。」の——を付けた「ギ」と同じ漢字を含むものはどれか。

- ア 虚ギの情報に惑わされないよう注意する。
- イ ギ性を払ってでも目標を達成するつもりだ。
- ウ 地球ギを使用して大陸の位置関係を学ぶ。
- エ 校則の改正に向け学生たちが論ギを尽くす。

〔問2〕 次の各文の空欄に入る最も適切な語を の中から選ぶとき、使用しない語はどれか。ただし、それぞれの語は一度しか用いないものとする。

- SNSの利用には情報流出の がつきものである。
- 機密文書に できるのは限られた人間だけである。
- 長年の経験で得た を活かし商品の開発を進める。

ア アクセス イ コスト ウ ノウハウ エ リスク

〔問3〕 次の空欄に一から九までの漢数字を入れて四字熟語を作るとき、使用しない漢数字を書きなさい。ただし、それぞれの漢数字は一度しか用いないものとする。

臓 腑
 牛 毛
 束 文
 苦 苦

〔問4〕 次の の中の「寄与」と「貢献」の関係と同じ関係の組み合わせはどれか。

寄与 — 貢献

ア 内容 — 形式
イ 過失 — 故意
ウ 需要 — 供給
エ 普遍 — 一般

〔問5〕 次の各文の——を付けた「ようだ」のうち、意味・用法が他の三つと異なるものはどれか。

ア 集合場所に到着している人はまだいないようだ。

イ 今年の花粉量は去年に比べてかなり多いようだ。

ウ すやすやと眠る赤ちゃんの寝顔は天使のようだ。

エ 私が買ってきたお菓子を食べたのは弟のようだ。

〔問6〕 「あめふればかさとり山のもみぢ葉は行かふ人の袖さへぞ照る」(壬生忠岑)と同じ季節をよんだ和歌はどれか。

ア ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ(紀友則)

イ 春過ぎて夏来にけらし白妙の衣ほすてふ天の香具山(持統天皇)

ウ 秋風にたなびく雲の絶え間よりもれ出づる月の影のさやけさ(左京大夫顕輔)

エ 山里は冬ぞ寂しさまさりける人目も草もかれぬと思へば(源宗于朝臣)

次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。

ステージの上に着ぐるみのキャラクターが二人、登場する。

この遊園地のオリジナルキャラだ。茶色の犬とピンクのウサギ……であろう。たぶん。おそろしくダサイ。

「みなさん、こんにちは！」

ふたりは客席に両手をひろびろと振り、声を揃えた。

「山中青田遊園地へようこそ！」

彼らの胸元には、カタカナで名前らしきものがフェルト地で貼られていた。

半ズボンを穿いた犬が「ヤー」、耳にリボンをつけたウサギが「アー」だ。

山中のヤー、青田のアー。⁽¹⁾ネーミングもはなはだ芸がない。

いい天気だねとか、遊園地は楽しいねとか雑談をしながら、ヤーが言った。

「最近、僕たちのことをおどかしたり、いたずらばかりしてくるキーキー族っていう集団がいるんだ」

「こわいわねえ」

アーも身震いしている。

そこに、合図のように「ババーン！」という効果音が鳴り、ステージの端から今度は猫の着ぐるみが登場した。青いボディースーツと赤いブーツ。あきらかに、正義のヒーローだった。

胸には大きく「G」というロゴが描かれている。

「困っている人の力になりたい、ぐるにゃん戦士だよ！」

山中青田遊園地が正式名称のこの遊園地は、地元民のみんなに「ぐるぐるめ」と呼ばれている。

その理由がいまいちわからなかったのだが、そうか、「ぐるにゃん戦士」から来てるのか。

……いや、待てよ。このヒーローっていつからいるんだ？ まだ新しいよな。

ひよつとして、みんなが「ぐるぐるめ」って呼びだしたから、後付けでこのキャラが生まれたのか。

だとしたらすごい話だな。大衆の声がヒーローを生むなんて。

しかしそのあとのステージは、なんとも退屈な展開だった。

時間調整なのだろうか。アーは朝起きるのがつらいとか、ヤーは走るのが遅いとか、困っていることを打ち明け始める。

しかしそれがなんなんだという感じだし、本題の「キーキー族」のことなどこつちも忘れてしまいそうだった。

たまにぐるにゃん戦士がギャグを言うのだが、それがまた、かわいそうになるくらいウケない。

正義のヒーローはそんなことをしなくていいのに。

三人がぐだぐたとゆるい話をしているうち、最初はぼつぼつといった客が、ひとり、ふたりと席を離れて行く。

「私、もうプール行きたい」

理穂^{りほ}がごねだした。

もともと、このイベントステージが終わったら園内のプールに行こうと話していたのだ。

トートバッグに入っている、新しい水着を早く着たいらしい。

ちらつと、芳子^{よしこ}が俺を見た。

俺はその目に合図を読んだ。

彼女たちだけ先に行くという提案なのだろう。

あたりを見回すと、客席にはもう、ごく少数しかいなかった。

最後列でイチャイチャしてるカップル、端っこで座ったまま、ぐっすり眠りこけているおっさん。

あとは、最前列の俺たち四人のみ。

こうなるともはや、このステージは俺たち家族のために上演されているといっても過言ではない。

なのに、もしこんな目の前でまたふたり離脱していったら、ステージにいる彼らはどれだけ心が折れるだろう……。きつとがんばって練習してきただろうに。

「……ちよつと、待ってな。もう少し見てからにしろ」

⁽²⁾
俺が小声で阻止すると、理穂は唇を尖^{とが}らせながらもステージに顔を向けた。

舞台の上では、猫とウサギと犬がわちゃわちゃと話し続けている。

「ぐるにゃんは戦士なの？」

「そうだよ！」

「あのね、僕たちのことをおどかしたり、いたずらばかりしてくるキーキー族っていうやつらがいて、困ってるんだ」

俺は、ほつと息をついた。

よかった、いよいよヒーローショーが始まる。

ぐるにゃん戦士が、自分の胸をドンとたたく。

「ようし、まかせろ！」

そこに突然、「キー！」という雄たけびが聴こえた。

ステージの両脇から、揃いの黒マスクと全身黒タイツの奴らがふたりずつ現れ、ぐるにゃん戦士たちを威嚇する。弱そうだが気味悪くはある。

なかなかのインパクトだった。

「出たな！ キーキー族のキーキーマンたちめ！ 僕が許さないぞ！」

ぐるにゃん戦士は勇ましく戦いのポーズを取る。

するとキーキー族は二手に分かれ、客席に降りてきた。

右側と左側で、本来ならいると想定された客に向かってキーキー驚かせるつもりだったのだろう。

しかしステージ付近の客は俺たち家族四人しかいない。

最後列のカップルのところまで行ってわざわざ邪魔するのも、寝ているおっさんを起こすのも得策ではないと踏んだようで、遠くまではいかず近くで騒いでいる。

「キー！」

ひとりのキーキーマンが、両手を大吾のほうに広げた。
その瞬間、大吾が「あつ」と叫んだ。

腕に結わえてあつた風船の紐が、するりと外れてしまったのだ。

大吾がびつくりしている間に、空に上がっていく風船。

とつさに、キーキーマンは軽くジャンプし、風船をキャッチした。
お見事だった。

思わず家族四人、おおー！と歓声を上げてしまったくらいだ。

風船の紐を、腰をかかめながら大吾に渡すキーキーマン。

大吾は「うわあ、ありがとう」と風船を受け取る。

(3)
俺はなんだかほえましい気持ちになった。

キーキーマンの「中の人」の素が、思わず出ちゃったんだな。
見えないけどわかる。

あの黒マスクの下は、きつと笑顔だっただろう。

しかし彼は今、キーキーマンである。

ステージに戻ると、ぐるにゃん戦士に向かって「キー！」と怪しい動きを見せながら近寄っていった。

「とおーっ！」

ぐるにゃん戦士が彼に向かって飛び蹴りをしかけた、そのとき。

「やめて！ けらないで！」

大吾が大声で叫んだ。

⁽⁴⁾
「思わず、俺たち家族も、

ぐるにゃん戦士も、キーキーマンも、ヤーもアーも、

びたつとフリーズした。

世界が止まった。

物語が止まった。

理穂があわてて大吾をたしなめる。

「やだ、ちょっと大吾。あれは悪いヤツだからやつつけないと……」

大吾は涙ながらに訴えた。

「悪くないよ。あのキーキーマンは、ぼくの風船を取ってくれたよ、いい人だよ！」

⁽⁵⁾
それはそうだけど、と理穂は口ごもる。

ぐるにゃん戦士たちはシンとして動かなくなってしまった。

「ぐるにゃん戦士はどうしてあの人をけつてもいいの？ それは悪いことじゃないの？」

泣きながら問いかけてくる大吾の声。

俺はハッとして、息をのんだ。

芳子も黙って、真剣な表情で大吾を見ている。

理穂が真っ赤な顔をして言った。

「……やだ、もう」

そして少しうつむいたあと、バッグを手に持ち、立ち上がろうとした。

「私、やっぱりもうプール行ってるね。恥ずかしい」

恥ずかしい……？

俺はほとんど無意識に、ぼそりと低い声でつぶやいていた。

「恥ずかしいぞ」

理穂がこちらを見る。

俺はもう一度、今度はしつかり理穂に向かって言った。

「恥ずかしくなんか、ない」

すると理穂は何か突かれたように真顔になり、浮かしかけていた腰をすつと椅子に降ろした。

尖らせていた唇は、今、一文字に結ばれている。

少しだけ間が流れた。

ほどなくして、棒立ちになっていたぐるにゃん戦士が、突然バツと両腕を顔の前でバツテンにする。

「よしっ、ここからは、ぐるぐるで勝負だ！」

ぐるにゃん戦士は、ぐるつと一回、バク転した。

「すごいー！」

大吾が目を丸くしている。

ぐるにゃん戦士は得意気に笑った。

「僕は猫だから、お手の物さ！」

なるほど、たしかに。

初めからそういう台本だったのか、この不測の事態にぐるにゃん戦士がアドリブを利かせたのか、そこからの「戦い」は互いのパフォーマンスの披露会だった。

ぐるにゃん戦士がバク転し、キーキー族が側転し、ステージはぐるぐるとアクターたちが回り続ける目を見張るような楽しいショーになっていた。

どちらもすごい。俺は大きく大きく拍手した。

いいぞ、ぐるぐるめ!!

素晴らしいステージだ。

それぞれの技を競い合う、こんな切磋琢磨の「戦い」を見せてくれるなんて。

アップテンボな音楽に合わせてヤーとアーが踊り出し、いつのまにか、観客が増え始めていた。ガラガラだった席に人が集まり、ステージと一体化するのを感じる。

おっさんは目を覚ましてステージを覗いているし、カップルも手を叩いている。

気がつけば、ステージのすぐ下でピエロもくるくると腕を回していた。

笑って。笑って。笑って。

音楽がだんだんスローになり、キーキーマンたちは疲れた仕草でへなへなと座り込んでいった。

ぐるにゃん戦士がひととき大きなバク転をぴたりと決め、ジャン！と大きな効果音が響く。
ヤーが嬉しそうに叫んだ。

「勝負あり！ キーキー族はもう、いたずらはしないって言ってるね！」

ぐるにゃん戦士は、ステージと会場の両方に向かって明るく言った。

「でも、キーキー族のぐるぐるもすごかったよ。そのパワーを、みんなで楽しいことに使えたらいいね！」
キーキー族たちはみな、大きくうなづく。

近くの仲間と肩を組んだり、腕を空へと掲げたりしながら、大きな拍手の中で、ステージは幕を閉じた。
俺たちを楽しませてくれた面々は舞台袖へと退場していく。

風船を取ってくれたキーキーマンが、去り際に、大吾に向かってことさらに大きく手を振っていた。

家族四人で拍手をしたまま、俺たちはなんだかぼううつとしていた。

理穂がぽつんとつぶやく。

「……正義のヒーローは悪者に暴力をふるってもいいのか……。どうなんだろう？」

それを聞いて、芳子が穏やかに言った。

「それはまず、正義とは何かというところから考えなくちゃいけないわ。理穂は、どう思ったの？」

「私は、よくわからない。だって、今までそういうものだと思ってたし」

うつむきがちにそこまで言って、理穂はぱつと顔を上げた。

「でも、ちゃんと考えてみたいなって……。思った」

それを聞いた芳子は、嬉しそうに片腕で理穂をぎゅつと抱き寄せる。

「それが今の理穂にとって、一番素晴らしい『答え』よ」

客席を立ち、大吾は風船を揺らしながら小走りに会場を出る。
理穂もプールに行きたくて少し早足だ。

子どもたちふたりの背中を見ながら、俺は芳子に言った。

「ああいう答え方もあるんだな……」

「え？」

「芳子は誰に何を訊かれても、ぱつと正解を出すんだと思ってたよ」
軽く首を振り、芳子は笑った。

「何言ってるの。この世の大半は、正解のない問いばかりよ」

⁽⁶⁾ そして満足そうに、愛おしそうに子どもたちを見た。

正解のない問いばかりの中で、もがいているのは子どもも大人も同じだ。

答えを探しながら、誰かに教えられながら、自分を伝えながら。

できることならば笑って。笑って、笑って。

(青山美智子・田中達也『遊園地ぐるぐるめ』による)

〔問1〕⁽¹⁾ ネーミングもはなはだ芸がない。とあるが、ここでいう「はなはだ芸がない」の意味に最も近いのは、次のうちではどれか。

ア 全く興味が持てない

イ あまり芸術的でない

ウ 全然おもしろくない

エ 少しも飾り気がない

〔問2〕 俺が小声で阻止すると、理穂は唇を尖らせながらもステージに顔を向けた。とあるが、この表現から読み取れる「理穂」の様子として最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア もう少し留まるようにという父の言葉に従いつつも、父の言いなりとなることを腹立たしく感じている様子。

イ もう少し留まるようにという父の言葉に従いつつも、心の中では納得しておらず不満に思っている様子。

ウ もう少し留まるようにという父の言葉に従いつつも、はつきりしない父の態度にがっかりしている様子。

エ もう少し留まるようにという父の言葉に従いつつも、会場の冷めた雰囲気にあたたまれなくなっている様子。

〔問3〕 俺はなんだかほえましい気持ちになった。とあるが、「俺」が「ほえましい気持ちになった」わけとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 本来は悪役であるキーキーマンがふいに見せた姿に、役柄とは異なった普段の人の良さを感じたから。

イ キーキーマンが配役を無視した行動をとったことで、ショーとしてのあまりの質の低さが逆におかしくなったから。

ウ 大吾が持つ風船がもう少しで飛んでいってしまうところだったが、キーキーマンに取ってもらえ安心したから。

エ キーキーマンが一瞬のうちに見せた動きへの感動を、家族四人で共有できたことをうれしく思ったから。

〔問4〕 思わず、俺たち家族も、ぐるにゃん戦士も、キーキーマンも、ヤーもアーも、ぴたつとフリーズした。世界が止まった。物語が止まった。とあるが、この表現について述べたものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア ショーが行われている会場にいる人物を全て挙げていくことで、それぞれの様子を対照的に描き出している。

イ 短文と改行を組み合わせつつ似た内容を繰り返すことで、会場の張り詰めた雰囲気を印象的に描き出している。

ウ 読点と改行を多く用いることで、テンポよく進んでいくヒーローショーの軽快感を写実的に描き出している。

エ 同じ助詞を用いながら登場人物を並べていくことで、全員の動きがそろった美しさを幻想的に描き出している。

〔問5〕それはそうだけど、と理穂は口ごもる。⁽⁵⁾とあるが、この表現から読み取れる「理穂」の気持ちに最も近いのは、次のうちではどれか。

ア ヒーローショーの流れを変えてしまうような難解な質問を大声で投げかける大吾のあまりの賢さに対し、弟の急激な成長を感じ驚いている。

イ ヒーローショーの流れに関係なく大声で自分勝手な主張を繰り返し叫ぶ大吾のあまりの剣幕に対し、返事をする 것도できずおびえている。

ウ ヒーローショーのお決まりを無視して大声でアクターに迷惑をかける大吾のあまりの身勝手さに対し、言い返すことができず怒りに震えている。

エ ヒーローショーのお決まりを理解せず素朴な正義感を振りかざす大吾のあまりに純粋な主張に対し、思わず納得してしまいう自分に困惑している。

〔問6〕⁽⁶⁾そして満足そうに、愛おしそうに子どもたちを見た。とあるが、この表現から読み取れる「芳子」の様子として最も適切ななのは、次のうちではどれか。

ア 子どもたちが常識にとらわれず考えようとする姿や簡単には答えを出せない問題に正面から向かい合おうとする姿を見て、その成長にうれしさを覚えている様子。

イ いろいろなことに疑問を持つてすぐ聞いてくるところや困ったときに頼ってくる子どもたちの様子を見て、小さな頃の姿がよみがえり懐かしく思っている様子。

ウ まだ子どもなのに大人ですらためらうような場面でも周囲にとらわれることなく、自分の主張を堂々と述べることできるという行動力の高さに感心している様子。

エ さつきまで難しいことを言っていたかと思えば、ショーが終わるとすぐに会場を出て遊園地を思い切り楽しもうとする子どもっぽさかわいらしく思っている様子。

次の文章を読んで、あとの各問に答えなさい。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。）

私たちは、目の前にある事実を、何らかの理論的な枠組みのなかで理解している。トマス・クーンは、そうした枠組みの総体を、

「パラダイム」と呼んだ。彼によれば、パラダイムは歴史を通じて一定ではなく、時間の経過とともに変化していく。あるパラダイムは別のパラダイムへと転換することがありえるのである。彼はそうしたパラダイムの転換を「科学革命」と呼ぶ。その代表格として挙げられるのは、一七世紀の天動説から地動説への転換である。(第一段)

では、科学革命はどのようにして引き起こされるのだろうか。クーンの説明は次のようなものだ。あらゆる観察された事実、パラダイムのなかで解釈され、説明される。しかし、そうした事実のなかに、一見するとパラダイムのなかで整合的に説明することができないものが出現する。クーンはそうした事実を「アノマリー」と呼ぶ。科学の探究とは、さしあたり、こうしたアノマリー、言い替えるなら変則現象をパラダイムのなかで解決するための営みである、と考えることができる。(第二段)

しかし、変則現象が増加していくと、パラダイムは説明の枠組みとして限界を抱えていることが意識される。それによって、パラダイムへの信頼は揺るがせられるのだ。クーンはそうした事態を「危機」と呼ぶ。⁽¹⁾こうした危機を乗り越えるために、変則現象をより整合的に説明することのできる、別のパラダイムが構想されるようになる。このようにして、パラダイムの転換は引き起こされるのだ。(第三段)

ただし、こうしたパラダイム転換の要因となるのは、観察に基づく科学的な探究の成果だけではない。むしろ、歴史的・社会的な条件が変更されることによつて、そうした転換が引き起こされることもある。(第四段)

したがって、パラダイムはその都度の科学者たちが置かれている歴史的・社会的な状況に条件づけられているのであつて、その転換は決して直線的な漸次的進化を辿るものではない。言い換えるなら、複数のパラダイムを比較して、どちらが優れていて、どちらが劣っているのかを評価することは、そもそもできない。なぜなら、そうした評価が可能であるためには、あらゆるパラダイムをそこへと還元することのできる共通の尺度が必要であるが、そうした尺度は存在しないからである。こうした性質を、クーンはパラダイムの「通約不可能性」と呼ぶ。(第五段)

たとえば、古代ギリシャにおける目的論的な自然観と、一七世紀以降の科学的な自然観は、それぞれまったく異なるパラダイムである。もちろん両者の間で、共通の語彙が使われることはあるだろう。たとえば、「生命」という語彙は、どちらの自然観においても使用される。⁽²⁾しかし、その語彙が意味するところはまったく異なっているし、単に異なっているだけではなく、一方の意味に相応するものを、他方の語彙のなかに探すことはできないのだ。古代ギリシャにおいて「生命」と呼ばれていたものは、一七世紀以降のパラダイムにおいては、それに相応するものが存在しない。逆も然りである。したがって、一七世紀以降のパラダイム

において「生命」と呼ばれているものが、古代ギリシャにおいて探究の対象になっていなかったとしても、それは古代ギリシャで生命が探究されていなかったことにはならない。なぜなら、生命の概念そのものが、古代ギリシャにおいてはまったく違ったものであったからであり、そして、「生命」という語彙を一七世紀以降のパラダイムにおける意味に限定して使用しなければならない理由は、さしあたり存在しないからである。(第六段)

さて、ここでクーンのいうパラダイム転換は、物語の訂正のプロセスに、ある意味でよく似ている。パラダイムにおいて変則現象が生じると同様に、私たちの人生にもそれまでの物語では予見されていなかった出来事が起きる。そして、さしあたり私たちは、変則現象をパラダイムのなかで説明すべく科学的な探究が行われるように、そうした出来事を人生の物語に組み込むべく、出来事を解釈する。しかし、変則現象の増加によってパラダイムが転換されるように、予想外の出来事の連続は、私たちの人生の物語に大幅な訂正を迫ることになるのである。(第七段)

こうしたクーンのパラダイム論に対して、激しい批判が寄せられることになった。⁽³⁾ 結局のところその理論は、あらゆるパラダイムを相対化し、科学が進歩していくと考えること自体を不可能にするからだ。もしもパラダイムが通約不可能なのだとしたら、あるパラダイムから別のパラダイムへの変化を、前進として評価できなくなる。なぜなら、前進は複数のパラダイムを共通の尺度に基づいて評価することを可能にするからだ。しかしそれは、科学の探究の営みを無意味なものにしてしまうのではないか。(第八段)

こうした問題に対して、イムレ・ラカトシュは、クーンのパラダイム論を引き継ぎながら、それを科学の進歩という観念と両立させるアイデアを提示する。それがリサーチ・プログラム論と呼ばれる理論である。(第九段)

ラカトシュによれば、科学的な探究の基本的な単位は「リサーチ・プログラム」と呼ばれる概念で説明される。それは、パラダイムとは異なる重層的な構造をしており、中心部分には「堅い核」があり、その外側を「防御帯」が取り巻いている。堅い核は、リサーチ・プログラムの基本的な仮定であり、いわばその探究を支える原理である。それに対して防御帯は、その原理を支える補助的な仮説などによって構成される。(第十段)

あるリサーチ・プログラムの根幹を支えているのは、堅い核に他ならない。もしもそれが廃棄されてしまえば、そのリサーチ・プログラムは全体として妥当性を失うことになる。⁽⁴⁾ それに対して、防御帯はするようにシリアスなものではない。たとえば、あるリサーチ・プログラムにおいて、それまでの理論では説明できない変則現象が観察されたとしよう。その場合、まずは防御帯を構成している理論が変更されることで、変則現象に対する合理的な説明が試みられる。しかし、そうした変更が行われるのだとして

も、堅い核は無傷であり続けるのであり、したがってリサーチ・プログラムはその同一性を失わない。(第十一 段)

ラカトシュは、このような構造をもつリサーチ・プログラムを、二つに区別する。すなわち、前進的リサーチ・プログラムと、退行的リサーチ・プログラムである。前者は、変則事象に対処するために防御帯を柔軟に変更することができるものであり、それは新しい知識を受け入れ、理論を発展させることができる。それに対して、後者は、防御帯がもはや柔軟性を持たなくなり、既存の理論と合致する知識だけを受け入れるものである。そうした理論は、変則事象と直面するとただちに堅い核が脅かされるため、理論全体が廃棄されてしまう。したがって、退行的リサーチ・プログラムは、前進的リサーチ・プログラムに席を取って代わられる。(第十二 段)

このような発想を取ることによって、ラカトシュは、クーンが共通の尺度なしに生じると考えたパラダイム転換という事象に、合理的で客観的な規則を見出そうとした。すなわち、科学的な理論の歴史的変遷は、その理論が防御帯を変更して堅い核を存続させ続けることができるか否かにかかっているものであり、もしもリサーチ・プログラムが全体として置き換えられることが起こるのでしたら、それは科学的な探究の前進として捉えることができるのだ。(第十三 段)

(戸谷洋志『責任と物語』(一部改変)による)

〔注〕天動説——全ての天体は地球を中心に回っていると考える方。

地動説——地球は自転しながら太陽の周りを回っていると考える方。

〔問1〕⁽¹⁾ こうした危機を乗り越えるために、変則事象をより整合的に説明することのできる、別のパラダイムが構想されるようになる。

とあるが、「こうした危機」が示す内容を次の のようにまとめるとする。空欄に当てはまる語句を、本文中より二十六字でそのまま抜き出して答えなさい。

が積み重なることによって、そのパラダイムの信用が低下するといった危機。

〔問2〕 この文章の構成における第四段の役割を説明したものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア それまでに述べてきた内容について、留意すべき点に言及しながら論の展開を図っている。

イ それまでに述べてきた内容に基づいて、簡潔にまとめることで論旨を理解しやすくしている。

ウ それまでに述べてきた内容を打ち消して、新たな視点から問題を捉え直そうと試みている。

エ それまでに述べてきた内容を整理して、詳しく分析した上で問題の所在を明確にしている。

〔問3〕 ⁽²⁾しかし、その語彙が意味するところはまったく異なっているし、単に異なっているだけではなく、一方の意味に相応する

ものを、他方の語彙のなかに探すことはできないのだ。とあるが、ここという「相応する」の意味に最も近いのは、次のうちではどれか。

ア 変わる

イ つながる

ウ 当たる

エ 関係する

〔問4〕 ⁽³⁾結局のところその理論は、あらゆるパラダイムを相対化し、科学が進歩していくと考えること自体を不可能にするからだ。

とあるが、筆者がこのように述べるのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選びなさい。

ア パラダイムが変化していくことに対して合理的な説明はできないので、パラダイムの転換を科学の進化として捉えられなくなるから。

イ どのパラダイムが優れているかを決めるのに必要な基準がないため、パラダイムの転換を科学の発展として認識できなくなるから。

ウ 複数のパラダイムを比較するのに有効な探究成果がないせいで、パラダイムの転換を科学の進展として位置付けられなくなるから。

エ 正しいパラダイムに基づいた規範とすべき目安がないことにより、パラダイムの転換を科学の向上として評価できなくなるから。

〔問5〕⁽⁴⁾ それに対して、防御帯はどのようにシリアスなものではない。とあるが、「そのようにシリアスなものではない」とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選びなさい。

ア 堅い核が廃棄されてリサーチ・プログラムの妥当性が損なわれたとき、堅い核の一部である防御帯を変更すればリサーチ・プログラムが信用を取り戻せるようになるということ。

イ 堅い核が捨てられるとリサーチ・プログラムは柔軟さを失ってしまうのに対して、防御帯を変更することはリサーチ・プログラムの基盤をより強固なものにするということ。

ウ 堅い核を捨て去ることはリサーチ・プログラムの正当性が認められなくなる事態を引き起こす一方、防御帯を変えたとしてもリサーチ・プログラムの本質は揺るがないということ。

エ 堅い核を放棄したことによりリサーチ・プログラムの存続が危ぶまれる事態になったとしても、防御帯を変えることでリサーチ・プログラム自体は維持されていくということ。

〔問6〕 本文中に述べられている筆者の主張と一致するものを次のうちから**全て**選びなさい。

ア クーンは、科学探究の実績や成果だけでなく、科学者が身を置いている環境や慣習によっても、パラダイム間の移行が少しずつ直線的に進んでいくことを指摘した。

イ 一七世紀以降のパラダイムで使用されている「生命」という語彙が、古代ギリシャになかった場合、古代ギリシャが生命そのものを探究していなかったと判断できる。

ウ パラダイムが転換する過程と同様に、我々の人生の物語は、予見していなかった出来事に次から次へと直面することによって、大幅な見直しが求められるようになる。

エ ラカトシュは、従来の理論に適應するだけのリサーチ・プログラムから新しい事実を受け入れられるリサーチ・プログラムに代わることを科学探究の発展と考えた。